

本社/事業本部/技術本部/事務センター

〒270-1165 千葉県我孫子市並木5-6-13 SECビル4階
TEL:04-7183-5711 FAX:04-7183-5691

事業本部 我孫子事業室/技術本部

〒270-1166 千葉県我孫子市我孫子1646
電力中央研究所構内
TEL:04-7182-2881 FAX:04-7183-0810

事業本部 横須賀事業室

〒240-0101 神奈川県横須賀市長坂2-6-1
電力中央研究所構内
TEL:046-857-3985 FAX:046-857-1602

事業本部 赤城事業室

〒371-0241 群馬県前橋市苗ヶ島町2567
電力中央研究所構内
TEL:027-283-7533 FAX:027-283-7352

事業本部 狛江事業室/流速計試験所

〒201-0004 東京都狛江市岩戸北2-11-1
電力中央研究所構内
TEL:03-3480-0603(狛江)/03-3480-0611(流速計)
FAX:03-3480-0617



創立40周年を迎えて

(株)セレス(CERES:Civil Engineering Research & Environmental Studies,Inc.)は、2017年12月9日で創立40周年を迎えます。当社は1977年創立の(株)シー・アール・エスを母体としており、2003年に(株)環境リサーチと合併し、社名をセレスとしました。

また、2015年から(株)ユウワビジネスの事業を逐次譲り受けております。

(株)シー・アール・エスは、電力中央研究所の協力会社として創立され、電気事業の土木と原子力関連分野における調査、試験を主な業務としてきました。1994年には、当時の通商産業省より流速計検定業務の委譲を受け、その期待に応えてきました。(株)環境リサーチも、同研究所の協力会社としてその前身(株)環境サービスが1983年に創立され、環境分野の調査、試験ならびに研究所構内の環境整備を主な業務としてきました。(株)セレスは両社の業務を引き継ぎ、融合することで土木、原子力、環境に跨る総合的な技術コンサルタント会社に発展、成長してきました。また、(株)ユウワビジネスが担われてきた電力中央研究所構内の営繕・工事業務、清掃業務、食堂業務、通送業務についても着実に遂行し、電力中央研究所の事業運営基盤を支えています。

社会環境や電気事業の経営状況が目まぐるしく変化する中、創立以来様々な困難を乗り越え今日を迎えることができるのも、電力中央研究所をはじめ電力会社ならびに(株)ユウワビジネス、(株)電力テクノシステムズ、(株)電力計算センターなど関係諸機関の多大なるご支援によるものと思っています。しかしながら、なによりも40年の間、日々誠実に社業に取り組んでいただいた諸先輩や社員の皆様に対し、心より深く感謝したいと思います。

社会が大きく変化する中においても、人々の生活に電気は必要不可欠であり、電力中央研究所や電力会社の研究・技術開発のパートナーとしての当社の役割が変わることはありません。これまで培ってきた経験と技術力に一層磨きをかけ、お客様にご満足いただける成果、サービスを提供できるよう社員皆さんの活躍を期待しています。

この40周年を一つの節目として心新たにし、未来を切り拓いていきましょう。

株式会社セレス 代表取締役社長

前田 貢



今を知り、過去を知り、未来につながるよう、40年を振り返る

現在のセレスを知る

会社概要

Company profile

セレスは

40年という歴史の中で、

時代にあった変貌を遂げてきましたが、

基本方針のもと、これからも真摯に

事業活動を通じた

社会貢献に努めてまいります。

使 命

緑と水とエネルギーの
創生による社会貢献

達成目標

環境・エネルギー分野の
技術開発活動への参画による
持続可能な社会の実現

会社運営の 基本方針

事業領域

電力中央研究所の技術開発・調査研究、
施設環境整備に関するパートナーとしての事業、
および電気事業、国、自治体、民間組織における
環境・エネルギー問題解決のための事業

名 称：株式会社セレス
(CERES:Civil Engineering Research & Environmental Studies,Inc.)

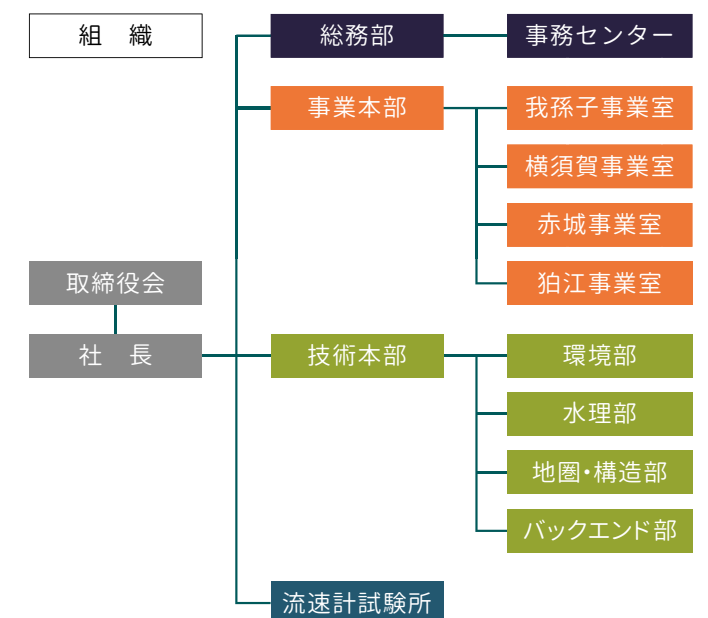
資 本 金：3,300万円

代表取締役社長：前田 貢

従 業 員 数：228名（2017年10月1日現在）

許認可

- ・一般建設業（千葉県（般28）第47362号 建築、とび・土工、造園等）
- ・建設コンサルタント（建26第8047号 建設環境部門）
- ・土壤汚染対策法指定調査機関（2004-3-1007）
- ・計量証明事業（濃度 千葉県第652号）
- ・一般労働者派遣事業（派12-300467）
- ・警備業（群馬県公安委員会第42000142号）
- ・旅行業（千葉県 第3-918号）
- ・保険代理店業（第09-24-06628号）



事業展開 Business Development

セレスは、会社運営の基本方針のもと、緑と水とエネルギーの創生による社会貢献という使命を果たすために、電力土木、環境・景観、発電所施設の健全性評価支援、流速計校正試験、化学分析・環境計量証明、研究環境の整備などの幅広い事業展開によりお客様のニーズに応えます。お客様に提供するサービスは、当社独自の品質マネジメントシステムにより、品質の維持、向上に努めています。

〈セレスの品質管理〉

セレスは、以下の業務の品質について、2005年9月にISO9001の登録・認証を取得しました。9年間にわたり品質管理システムを運用し定着したため、2014年9月29日に自己適合宣言をし、右記の品質方針のもとでISO9001適合の品質の維持管理を行っています。

ISO9001適用範囲：

電力土木、環境、電力技術に関わる調査・実験・解析、流速計の校正及び実験施設の維持管理サービス並びに緑化工事

〈セレスの品質方針〉 ※セレスの品質管理は、以下の品質方針のもとで行われています。

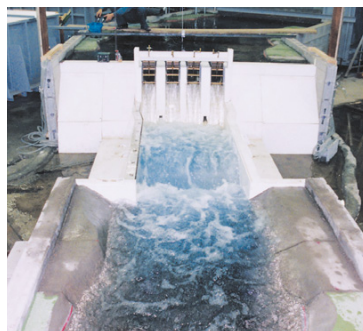
1. 「緑と水とエネルギーの創生による社会貢献」を使命として、環境・エネルギー分野の技術開発に積極的に参画し、持続可能な社会の実現を目指します。
2. 次の内容を含んだ年度事業計画を策定し、着実に履行します。
・社会の動向とお客様のニーズを反映した事業計画
・法令等の順守、事故・不具合の回避、無駄の排除
・社員による心身ともに健康な職場作り
3. 事業計画の実施状況を適宜レビューし、達成度を評価します。
4. 内外の状況を踏まえて事業計画を継続的に見直します。
5. 事業遂行において、社員の権限と責任を明確にし、必要な資源を配分します。

電力土木 (構造物の耐震性評価、水理模型実験・解析、河川・湖沼調査(流量観測他))

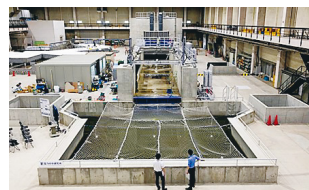
電力施設の立地・維持管理に係わる調査・試験・解析を行っています。



造波実験(電力中央研究所保有設備)



水理模型実験(電力中央研究所保有設備)

津波・氾濫流実験
(電力中央研究所保有設備)

流速計校正試験

流速計の校正試験を実施しています。
発電水力流量調査、河川流量調査をはじめ、各種用途に合わせた試験成績書を発行しています。



発電所施設の健全性評価支援 (地質地盤調査・物理探査、構造物の健全性評価、地層処分・余剰深度処分、放射性物質の輸送・貯蔵)

発電所および原子力関連施設の健全性や原子力リスクに係る評価を支援するために、各種材料の物性評価試験や現地調査、実機構造物による実証試験を行っています。



地表地震断層調査

断層破砕帯試料等の各種分析
(電力中央研究所保有設備)実機構造物の健全性実証試験
(電力中央研究所提供)水路構造物の載荷試験
(電力中央研究所保有設備)

エネルギー分野から
環境分野まで

お客様の立場から
ニーズにあった
ご提案
問題点を整理して
対策・解決策を
いたします

環境・景観

(陸水・海洋環境調査、陸域環境調査、生物調査・生態系保全、景観・森林再生、リサイクル資源の利活用)

環境保全の観点から、陸域・水域、動植物生態系にわたる各種調査・試験やコンサルティング、アセスメントを実施しています。



野菜・樹木の栽培試験(電力中央研究所保有設備)



樹木診断



河川調査



動物調査



土壌汚染調査

化学分析・環境計量証明

(環境計量証明、絶縁油中の微量PCB分析、特殊分析・材料分析、食品・飲料物の放射性物質検査)

水質、大気、土壌などについて計測、分析し、計量証明書を発行しています。



新分析室



GCECD(PCB測定装置)



PCB前処理装置

研究環境の整備

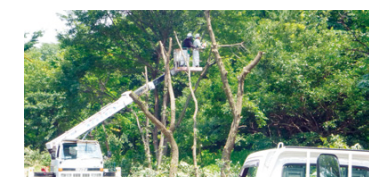
より良い研究環境を支えるパートナーとして、研究機関の構内緑化、営繕、ビル管理、清掃などの環境整備、警備、食堂・寮の運営、旅行・保険の手配を行っております。



芝生の管理



食堂の運営



森林の保全

事業所紹介 Office Message

事業の品質を維持、向上するために、2017年7月1日より、事業本部、技術本部、流速計試験所の3つの柱に分け、事業の専門性を強化しています。専門はもちろん、心のこもった仕事により、従業員一人ひとりが真摯に業務に取り組み、セレスを支えています。

事業本部

事業本部はこうしてセレスを支えています！

事業領域

研究環境の整備（研究補助等事務業務、旅行・保険、環境整備、食堂、寮管理、警備、清掃、通送、スポット工事等）

本部

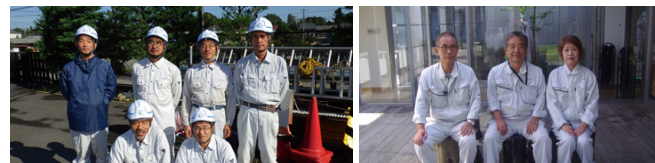
近年、電中研の研究拠点整備により建屋の事務棟や研究実験室棟等が新しく建替えられ、また維持管理面での敷地面積も変更されています。事業本部の事業支援系の仕事としては、このような設備等について、人と人がより豊かな職場環境の維持管理を日々着実に実施し、安心して試験研究業務が行えるように、保守・点検・整備しバックアップしていくことであると考えています。このための適切な要員や機具類を整え、確かな安心感と誠実な心構えで、より良い職場環境作りの一助となれるよう、日々心がけていきます。



我孫子事業室

我孫子事業室は業務課、施設課の2課で構成されていて総勢59名の大所帯です。業務課では環境整備、食堂、松戸寮管理、旅行・保険、研究補助業務や事業所内の備品の管理や契約などの業務も行っています。一方施設課では、警備、清掃、通送をはじめ電力中央研究所内の施設管理の業務を日々行っています。

以上のように実施する業務は広範ですが、従業員一人ひとりが自分の担当する業務についてそれぞれプロ意識を高く持っている集団です。これまでの経験と知識を後代に引き継ぎながらも、さらに潜在能力を最大限発揮できる職場を目指します。10年後もセレスの「緑の下の方持ち？」でありたいと思います。



横須賀事業室

私も横須賀事業室は、電力中央研究所横須賀地区の事務系業務を全面的にサポートしています。2015年度の大規模な事業拡大に伴い、それまでの環境整備業務に加えて、研究事務業務、インフラ設備管理業務、清掃業務、通送業務、松山寮管理業務等の業務分野を実施しています。メンバーは各業務に精通し、その分野においてはプロフェッショナルとしての気概が高く、メンバー間の融和を図りつつ全霊をもって研究所殿に貢献しています。引き続き私の有する高いスキルを活かし、健康、安全第一の下で誠実に業務を遂行してまいります。



赤城事業室

赤城事業室では赤城試験センターの広大な敷地の維持管理（環境整備・施設清掃）や施設管理（施設警備・黎明寮管理）を主に行っています。他にも同センターで行う試験研究の支援、スポット工事など多様な業務を行っています。

これまで築いたノウハウを活用し、常に自己研鑽を怠らず、来訪者や職員の皆様に快適に過ごしていただけるよう、良好な環境を維持していきます。

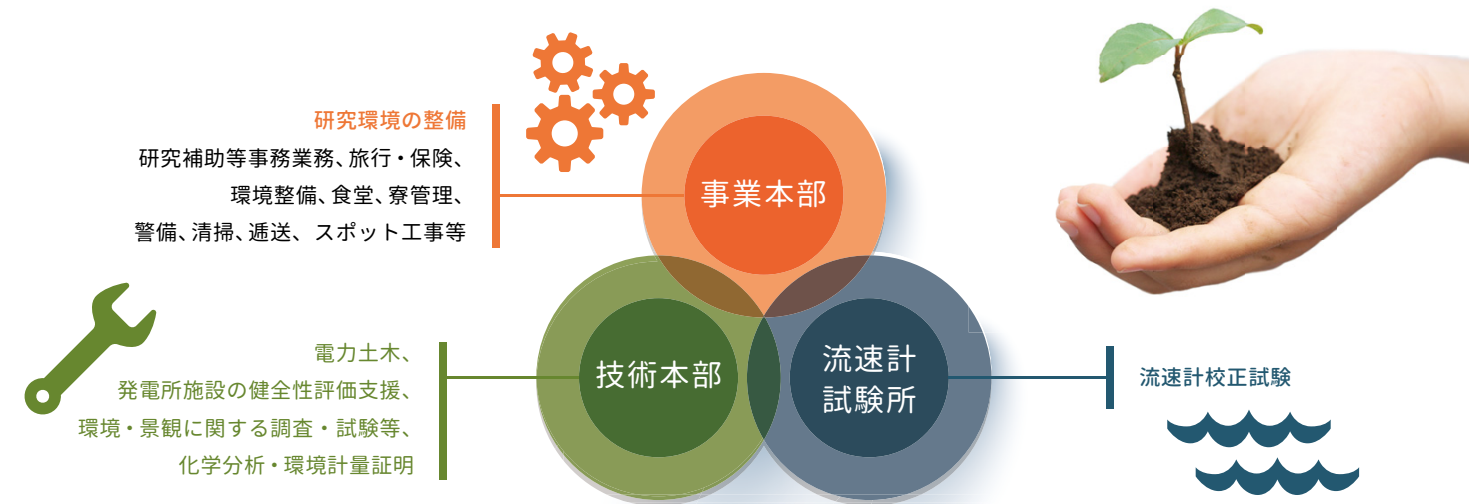
赤城事業室では、これからもコミュニケーションを大切に、安全で明るく活気ある職場作りを目指します。



狛江事業室

狛江事業室は、構内の樹木剪定・除草・道路清掃などの環境整備業務を主に担当しています。狛江地区は、道路拡張工事や土地売却などのため敷地面積が減少し、マンション建設等周辺環境も大きく変わりつつあります。私たちは少人数の事業室ですが常に自己研鑽を怠らず技術向上を図ることと、丁寧な作業の積み重ねにより、これからも良好な緑地環境を維持していく所存です。作業は安全を第一に考え、来訪者や職員等に快適に過ごしていただけるような緑地環境づくりを目指しています。

狛江事業室は、これからも明るく風通しの良い職場環境を維持し、やりがいのある業務・楽しい職場作りを目指します！



技術本部

技術本部はこうしてセレスを支えています！

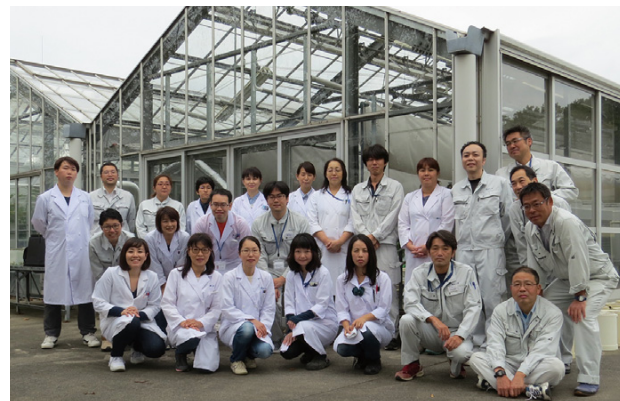
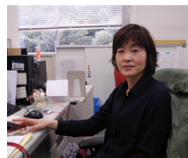
事業領域

電力土木、発電所施設の健全性評価支援、環境・景観に関する調査・試験等、化学分析・環境計量証明

環境部

技術本部環境部はセレスの英語後ろ半分に当たる、Environment Studiesを一手に担当しています。現地調査では、日本国内はもとより、北は北極海から南は東南アジア諸国～赤道までを対象範囲として、大気・水・土壌・動植物・微生物に至るまでを調査対象としてきました。また、現地で採取した試料について、最終的な分析、解析作業までワンストップで実施可能な部署として、社のベーシックな部分を支えてきました。

近年、ベテランと呼ばれる人材が多数を占めてきましたが、培った技術力を若手に継承し、「現地調査、分析は任せておけば間違いない」と評価されるような部署であり続けていきたいと思っています。



地圏・構造部

地圏・構造部は、地質、土質力学、岩盤力学、構造工学、地震工学という広い分野から電力事業の発展を通じて社会貢献に寄与しています。あるときはフィールドでの現地作業や電力中央研究所が所有する大型研究設備を用いた実験作業、その一方では実験室での精密な分析作業というように、大きなものから微細なものまで我々が取り扱う対象は様々です。どの分野でも満足度の高い成果を出し、顧客からの信頼を得続けられるように、多岐にわたる分野のプロフェッショナルが揃った技術者集団を目指して、日々技術力向上に取り組んでいきます。



水理部

40周年となった本年、7月のセレス組織改編により新体制でスタートした水理部は、河川Gr、海岸Grの2グループで構成されています。ただし、グループ間に垣根はなく、常に協力し合って業務に取り組んでいます。

主な業務は、河川・海岸関連の水理模型実験、流体工学関連の実験及び流量観測・測量等の現地調査です。また、(一財)電力中央研究所の所有する津波氾濫水路や大型造波水路等の大規模な実験設備を用いた実験や同研究所の研究支援業務を実施しています。

これまで、水理部は数多くの模型実験を実施しており、これらの培ってきた技術力でセレスの事業活動を支えてきました。これからも、同研究所の研究支援業務はもとより、電力会社、地方自治体及びコンサルタント会社から受注する数多くの実験業務・調査業務を実施し、これらの業務を通じて電力事業等の持続的な発展を支え、関連するインフラの安全や環境の向上を図り、社会に貢献していきたいと考えています。

今後、社会と技術との関わりの変化により、事業活動も

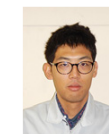
変化していくと考えられるため、従来の業務に加え、ドローンを用いた測量技術や3Dプリンターを活用した模型製作など、業務拡大につながる知識や技術力の向上を目指します。また、インターンシップの受入れや若手社員の積極的な採用などを通じて、次世代を担う人材を育て、セレスを支え信頼される技術者へと成長できるよう取り組んでいきたいと考えています。



バックエンド部

【黒澤部長】

長年にわたり実験業務に従事してきましたが、様々な工夫をしてきたと同時に様々な失敗もしてきました。この経験を後輩たちに伝え、これからも電中研にとってかけがえのないパートナーとなれるように技術継承をしていきます。

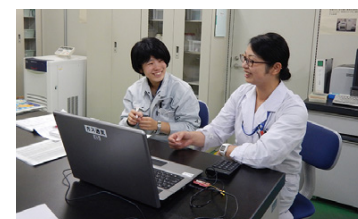


【榎田社員】

技術本部バックエンド部の榎田夏近です。2016年12月に派遣社員としてセレスに入社し、2017年6月から正社員として我孫子地区で働いています。

バックエンド部では主に放射性廃棄物の地層処分に関連する事業を行っており、私はベントナイト関連業務で様々な試験や分析を行っています。

未熟なところもありますが、将来セレスにより大きな貢献ができるように日々の業務にあたっています。



1977 —→ 2017

セレス40年のあゆみ the 40-year history

流速計試験所

流速計試験所はこうしてセレスを支えています！

事業領域：流速計校正試験

流速計試験所は、旧通商産業省・資源エネルギー庁で行われていた流速計検定業務の民間移譲を受け、平成6年4月に開所しました。年間約2,000kmの距離を走る試験台車は、開所以来、約23年間無事故運転記録を伸ばし、精度の高い試験を続けています。また、通算試験台数は今年度で25,000台を超える見込みです。今後も測定精度の維持と更なる技術力向上を目指し、業務を遂行していきます。

流速計試験所は、これからも明るく風通しの良い職場環境を維持し、やりがいのある業務・楽しい職場作りを目指します！



総務部

総務部はこうしてセレスを支えています！

本社機能（経理、労務等）、事業運営全般（規程制定、許認可等）

事務センター

総務部は、会社登記等経営の基本的手続きや株主総会、取締役会、経営会議、諸規則の改廃、労基署や警察署等役所対応、ガバナンスやコンプライアンスの源となる機関運営の担務部門です。

事務センターは、皆様の日々の活動を支える労務・会計管理の統括部門として、給与・賞与の支払、社会保険業務や福利厚生サービスのベネフィットワンの運用、外注先・購入先会社への支払、出張旅費・立替払の精算、資産管理、年度決算を行い、株主総会での承認を経て、新たな1年が始まる、という日々の活動と会社経営を橋渡しするお仕事で頑張っています。



事業所紹介のページでは、多くの方にご登場いただいておりますが、写真撮影等の都合により全員をご紹介することはできませんでした。今回ご紹介できなかった方々も含め、セレス従業員一同をこれからもよろしくお願いいたします。

国税庁がデータベースにまとめた会社生存率では、設立から30年後の会社の存続率は0.021%ということで、企業が40年生き残ることは本当に大変なことです。セレスは、40年の歩みの中で時代の流れを読み、適切な対応をしてきた結果、社会的に価値のある存在であり続けています。この40年間で培った経験、ノウハウ、人は、未知の事象に対して、経験則を活かして適切な判断をし、未来につなげるために必要な、他社にはない、当社だけが持つ貴重な宝であると言えます。



1 会社発展のあゆみ —事業規模拡大—

協力会社間の合併・事業譲受

電力自由化等電気事業を取り巻く状況の大きな変化に対応するために、(株)シー・アール・エスと(株)環境リサーチが協議し、両者の経営と技術力を一本化することで合意し合併しました。新生セレスは、前身の2社の事業活動をそのまま引き継ぐとともに、2社がこれまでに培った技術とノウハウを更に発展させ、土木と環境問題に対して広く社会全般を視野に入れた事業展開をしてきましたが、その後、(株)ユウワビジネスの事業の一部を譲り受け、さらに幅広い事業展開が可能となりました。

(株) シー・アール・エス (1977.12.9 設立)
発送電技術に関わる原子力や
電力土木分野の調査、試験等を実施

(株) 環境サービス (1983.11.18 設立)
環境保全や農水産技術の実用化に
関わる調査、試験等を実施

1994.4.1 流速計試験所を設置

1989.5.24 (株) 環境リサーチに社名変更

(株) セレス (2003.7.1 設立)

電気事業に関する土木・原子力・環境・生物分野の調査・試験・化学分析等を
主な業務とする総合技術コンサルタント会社が誕生

2015.4.1～2016.4.1 (株) ユウワビジネスの事業の一部を譲受

総合技術コンサルタント会社であり、かつ保険・旅行業務、警備、清掃、
食堂業務などの事業も幅広く展開する総合会社に進化

セレスを振り返って Senior's Message

2 事業展開のあゆみ

継続実施の主力事業から時代を見据えて実施した事業まで多様な事業展開がセレスの強みです。

受注実績（一部抜粋）

事業例	1977 年 ～ 2007 年	2008 年 ～ 現在
発電所施設の健全性	1978年から、武山超高压電力研究所（現：電中研横須賀地区）構内で実験ヤードの建設を開始。工事・保守管理業務、落下衝撃試験、耐火試験、浸漬試験などの研究支援業務を受注。	2008年頃から、電中研より、ベントナイト並びにセメント材料試験など廃棄物地層処分に係る業務などを受注。2011年頃から、キャスク落下試験などを受注。
環境・景観	1992年頃から、発電所建設に伴う道路、ダム湖などの造成に関わる環境調査として、動物・植物などの生態系調査を受注。	2008年頃から、自治体等より、アライグマ生息調査と手賀沼流域調査、汚染土壌搬出実態調査等を受注。
電力土木	1979年頃から、主に水力発電所水路構造物関連の水利模型実験および設計コンサルタント業務を受注。その後、電力施設の海岸水利模型実験や温排水拡散実験等を受注。1984年、電力共通研究第1号として「高レベル廃棄物輸送用キャスクの安全性実証試験業務」を受注。その後、原子力発電所の立地技術および原子燃料バックエンド関連技術などの研究支援を受注。	2013年から、電力共通関連事業「原子力発電所屋外重要土木構造物の健全性評価手法」、「電源近傍における地震動評価手法の高度化」等を受注。その他、津波挙動試験、火力発電所LNG1号機景観調査、3号機増設計画の取水ビット模型試験、ダム改造工事に関する模型試験、温排水の表層放水流に関する水利模型実験等を受注。
流速計校正試験	1994年4月、流速計の校正業務を実施。流速計試験設備の貸出しも行う。	
化学分析・環境計量証明	電中研の開発したバイオセンサーを用いて、絶縁油中の微量なPCBのスクリーニング分析を実施。2011年から食品等の放射性物質検査等を受注。	

2011年 東日本大震災後に注目されたキーワードを含む受注案件（上記記載以外）

津 波	津波堆積物の試料採取および分析業務、防波壁設置に伴う津波の挙動に関する検討業務（2011年～2012年）、津波堆積物認定のための有機物前処理・分析業務（2013年～2016年）、津波・氾濫水路見学対応業務（2014年）、津波実験計測作業（2016年）、東北地方太平洋沖地震を踏まえた津波評価手法（2016年～2017年）他多数受注。
耐 震	原子力施設の耐震性に関する知見の整理（2011年以前～）、柱上設備における耐震性能評価に関する研究の補助業務（2011年以前～2012年）、耐震性評価の実験（2014年）、屋外重要土木構造物の耐震性能照査手法の高度化（2015年～2017年）他多数受注。

トピックス

	セレスでの出来事	世の中の動き
2008年	・ ホウ素濃度常時監視計（電中研特開2002-350369）を製品化し、販売体制を構築。 ・ 木質ペレット製造設備を導入し、販売体制を構築。	・ 米国の大手投資銀行リーマン・ブラザーズが経営破綻したことが引き金となり世界的な金融危機へと発展。リーマン・ショックと呼ばれ、日本も多大な影響を受けた。
2011年	・ 電中研へ出向中の社員（環境部）が電中研理事長表彰（研究業績賞）を受賞。表彰件名は、「絶縁油中PCBの測定技術および低濃度PCB混入変圧器の洗浄技術の開発と実用化」。 ・ 野菜工場管理業務での実習等を通じたこれまでの社会教育支援活動が評価され、赤城事業所が学校法人大出学園特別支援学校若葉高等学園より感謝状を授与された。	・ 東日本大震災が起こる。原発運転停止、電力設備損傷等により計画停電実施。エネルギー基本計画の見直し等エネルギー政策の見通しが不透明に。
2014年	・ ペレット製造販売は事業収束。	・ IOT（モノのインターネット）という言葉が急速に広がる。様々なものがインターネットでつながることで相互にやり取りでき、スマホから家電をインターネット経由で操作する等生活にも浸透。
2015年	・ わたらせ森林組合に木質ペレット製造設備を無償譲渡。 ・ 流速計試験所が古い流速計をNHKに貸し出し、ドラマ「松永安左エ門」の撮影に協力した。	
2016年	・ わたらせ森林組合の「地域材加工センター」の竣工式が開催され、木質ペレット製造設備の無償譲渡について感謝状が贈られた。	・ 世界トップ級の囲碁の棋士がAI（人工知能）に完敗。AIによる自動車の自動運転など実用化段階に入る。 ・ 4月より、電気の小売業への参入が全面自由化され、競争が全国規模に。
2017年	・ 電中研、(株)住化分析センターとの三社で共同研究した成果を特許登録。特許件名は、「ドラフトおよびドラフトを搭載している分析車」（特許第6119048号）。	・ ノーベル化学賞は「クライオ電子顕微鏡の開発」が受賞。溶液中の生体分子の構造を高い解析度で観察できるクライオ電子顕微鏡の発明が評価され、欧米の研究者3氏に贈られた。

40年近くセレスを支え、セレスの発展に貢献した先輩方に、「昔のセレスはこんなだった。今は、こんなところが変わった。」、「仕事をするうえでこんな危機的状況があったが、こんな風に乗り切った。」といったテーマで、貴重な体験をお伺いし、後輩たちへのメッセージをいただきました。

危機の乗り切り方

1 レベルの高い仕事を継続的にこなして得た信頼関係や高い技術力

取締役 月山 清（入社時：1988年 (株)シー・アール・エス）



小職は、1988年に(株)シー・アール・エスが横須賀地区で行っていた放射性物質輸送容器の実証試験要員として入社して、最初の数年間、主に落下試験と火災試験に従事していました。100t級キャスクの実証試験を実施する場合、当社が直接作業する場面はあまりなく、工程管理と現場管理が主な仕事でした。100t級キャスクの場合、治具の設定に計算ミス等があれば、クレーンの倒壊等大事故に直結するため当時は緊張の連続でしたが、電中研殿や外注の熟練作業者の方々に指導を仰ぎながら自分なりに勉強を重ね、難局から逃げずに乗り越えてきたことが、今の技術のベースになっていると思います。

その後1993年に我孫子に転勤になりました。小職に与えられた使命は、電力共通研究の報告書を電中研殿の指導のもと、(株)シー・アール・エスの社員が実際に作成していることを発注元の電力各社の担当者に認識して頂くことでした。当時の(株)シー・アール・エスは売り上げの半分以上を電力共通研究が占めており、(株)シー・アール・エスの名前で検収物である報告書を納品していましたが、実態は、電中研の研究員殿が報

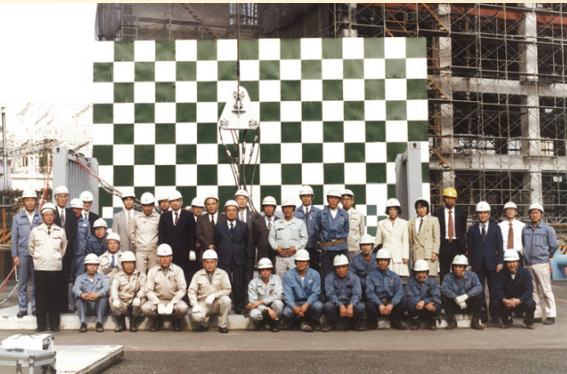
告書を作成していたため、発注元である電力会社からの風当たりが強く、これを一部でも是正する必要がありました。そのためには、(株)シー・アール・エスの社員が研究計画作成、研究予算の見積、試験等の外注先の選定、成果報告会での発表、報告書の作成といったプロセス全体に主体的に関与することが求められました。このため、(株)シー・アール・エスの籍のまま当初の8年間程度は電中研の研究室に常駐し、その後も主に放射性物質の輸送時や貯蔵時の安全性評価研究に従事する生活を送りました。

原子力の知識が豊富な電力殿に納得して頂く内容の報告書を仕上げることは容易なことではなく、電中研殿の指導を仰ぎながら四苦八苦の生活が続きましたが、15年間程度電力共通研究を継続してきたことで、電力殿との信頼関係や人脈を築くことが出来、さらに技術士を取得するための技術力も身につけることが出来たのだと思います。また、この間

に並行して横須賀地区や赤城地区・兵庫県のEディフェンス等での大規模実証試験も担当するなど、今振り返ると、うまく仕事をこなしていたと我ながら感じします。

上記のような生活スタイルは、ワークライフバランスの観点からは褒められた話ではありませんが、無理のない範囲でレベルの高い仕事を目指して勉強や仕事をし、その成果が得られた時の達成感を糧に、次のステップを目指すといったサイクルを回すことが出来れば、仕事に対するモチベーションも高い水準で維持出来ると思います。

仕事は、させられるのではなく、自ら率先して取り組むと、仕事に対する味わいも変わってくると思います。



H7年頃に実施した落下試験後の集合写真。一番右が小職です。バックは、建設中の横須賀地区の本館（H8年竣工）です。

セレスの変化

2 入社37年間の自身を ふり返りみて、 また昔の良き時代の日々

事業本部長 野口 久弥（入社時：1980年 ㈱シー・アール・エス）



1980年、我孫子地区でコンサルタン
ト業務を行っていた水理構造物ダム洪
水吐減勢工模型等の実験要員として㈱
シー・アール・エスに入社しました。これ
まで携わらせていただいた技術系（27
年間）の実施業務は、水理模型実験
（（S55-H8）出し平ダムの洪水吐や排
砂関係等12件）、降雨流域調査（（S55-
S60）笹間川流域降雨・流量）、水文関係
の土壌物理性試験や現地調査（小勝島
等）、石炭灰埋立処分関係（S63-H16）
のライシメータ模擬土層室内実験や現
地環境調査、手賀沼湖沼ピオトープ水
質調査（H9-H12）、雄勝AE観測機器の
計測や保守点検（H9-H12）、環境分析
関係（H13-H19）等で、事業系（10年）は
電中研構内の管理業務（環境整備、寮、
清掃、通送、食堂、警備）、業務支援（SI/
事務/旅行保険）の管理（H19-H29現在
に至る）です。現在まで関わらせて戴い
た業務は多岐に渡り（広く浅く）、大変貴
重な経験をさせて戴いています。

入社したての頃の㈱シー・アール・エ
スは人数も少なく、本社役員/事務員含
め数十名程度で、我孫子地区の実験要
員は男性社員3名で菅野、野口他1名と
記憶しています。その後、我孫子地区で

水理模型実験、材料試験や土質試験等
の受注が増え、毎年正社員を数名採用
し順調に業務を拡大していきました。さ
て昔のバブル期を経験した時の話です
が、国内総イケイケ状態でまた技術料単
価も高く、入社後数年間（1986～91年）
は好景気が続き、1991年は社員数120
名で売上高も21億円を経験した時代が
ありました。その時期は、翌年1992年に
15周年記念行事として初の海外社員旅
行（グアム・台湾）が開催され、その後も
1993年に、会社研修費用で日経連洋上
管理監督者研修を実施し（参加者数百
人）、飛鳥客船でアジア地域の台湾・香
港・上海の寄港地を周り2週間の研修会
（野口参加）を1名選抜で数年間実施して
いました。【良き時代】の思い出です。他
にも、入社1年目（S55）は夏時間があり、
仕事は午後4時頃までだったように記憶
しています。電中研の倶楽部活動も盛ん
でよく野球部の練習に参加し、趣味を通
じた仕事の繋がりも多く出来ました。
2003年の合併（㈱環境リサーチと㈱
シー・アール・エス）によりセレスとな
りましたが、数年間は社内コミュニケー
ションも活発で、野球部、スキー部、自転
車部等の社員間交流が多く仲間意識も

高かったように感じます。

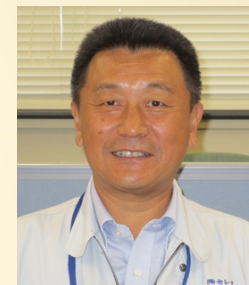
最近では、景気の回復傾向の影響によ
り、売上高13億円前後で社員数も倍の
220名と増えましたが、一方で業務内容
も多様化し、仕事の細分化や要員増に
よる意思疎通がうまくいかないケースが
まれにあると感じています。人生や仕事
には色々な局面があります。職場内での
問題は一人だけで対応せず、グループ
や周囲の上司を巻き込み、一歩前に出
ていく気構えて難題する業務に対応し
ていければと思います。これからのセレ
スとして、社内の風通しをより良いもの
にし、色々な局面で話し合える信頼でき
る仲間や連携による技術力・組織力アッ
プが、重要であると考えています。どん
な仕事でもそうですが、事前準備が重
要で、慣例だからといって漠然と行うの
ではなく、数分間手を止め、業務内容や
手順等を言葉や頭でイメージし、一人ひ
とりより良い思考力で業務に対応して
いくことを目標に、全社員力を合わせ邁
進していきましょう。

最後に、自身について「一歩一歩着実
に、また誠実に、一生懸命に、余裕を持
ち」をモットーに日々対応していければ
と思います。

危機の乗り切り方

3 目の前の仕事に対して 誠意を持って 向き合うことで道は開ける

技術本部長 並木 正明（入社時：1986年 ㈱シー・アール・エス）



私は、1986年に㈱シー・アール・エ
スに入社し、今まで一貫して水理模型
実験に携わってきました。その中で、私
のターニングポイントとなった業務に
についてお話ししたいと思います。

㈱シー・アール・エスは、1986年当
時も電中研殿の業務委託以外に現在
と同様に電力会社等からの水理模型
実験業務を実施しており、私は入社し
て間もなくその水理模型実験業務に
携わるようになりました。入社後12年
間は、水力発電所の水路構造物の実
験業務に従事していましたが、入社12
年目の1998年に温排水実験の主担
当を初めて任されることになりました。
この実験は、火力発電所の新設工事
に伴い、取水口前面の最適な浚渫形

状を、三次元模型を用いた温排水実
験により求めるというものでした。

当時の電力会社の担当者は、非常
に熱心な方で、実験精度、実験方法の
妥当性、実験結果の評価等について
ほぼ毎日問い合わせがあり、約1年も
の間1日2～3時間の電話のやり取り
が続きました。最初は、私に温排水実
験の知識がなかったことから電力会
社の担当者の期待に応えられないの
ではないかと不安な日々が続きました
が、周りからの励ましもあり、ある時か
ら、できないなりに自分のできる範囲
で頑張ろう、という気持ちに切り替え
ることができました。即答できない問
題は後で文献等を調べて自分なりに
誠意を持って対応すれば良い、と開き

直ることで気持ちが楽になり、最後ま
で業務を遂行することができました。
この業務が私のターニングポイントで
あり、私を成長させてくれたと思って
います。

この温排水実験の後にも、港湾波浪
実験、海岸浸食調査などそれまで経
験したことがなかった業務に主担当と
して携わってきましたが、その都度、自
分にできる範囲で誠意を持って対応
する、という気持ちで乗り切ることが
できました。みなさんも新しい業務を
担当するとき、つまづくことがあるかも
しれませんが、目の前の仕事に対して
誠意を持って向き合うことで道は開け
ると思います。

40年のあゆみ - 未来に向けて -

従業員、利害関係者等の方々の支えがあって、今のセレスがある。40年を迎えた今、これらの方々の支えにあらためて感謝し、40年のあゆみの中で培った、経験、ノウハウを活かして、真摯に業務に取り組み、さらに未来へと引き継いでいただければと思います。40周年記念誌作成にご理解、ご尽力いただきましたセレス広報委員会委員の皆様および関係者の皆様に心より感謝いたします。

（40周年記念誌編集事務局）